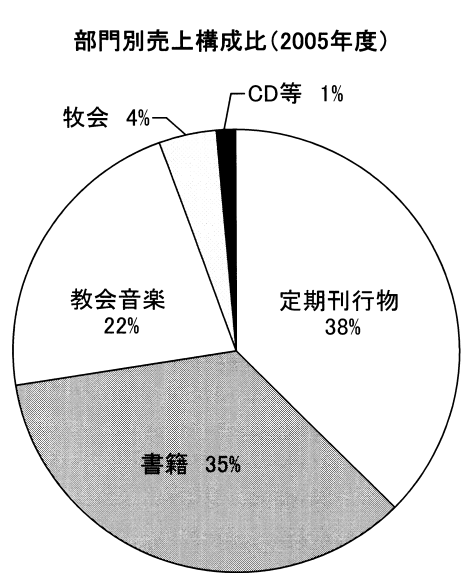


教団新報

定価 1部140円(本体133円+共200円)
予約購読料 1年分 5,000円
紙代のみ 3,500円
振替 00140-9-145275
本紙を購読ご希望の方は、前金を
そえて、お近くのキリスト教書店
へお申し込み下さい。
教会の購読料は負担金に含みます。

発行所 日本基督教団
169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18
日本キリスト教会館内 電話
03(3202)0546
FAX03(3207)3918
発行人 愛澤 豊重
編集主筆 竹澤 知代志



過去

出版局の歴史は、一九四一年の教団合同にともない、それぞれの教派の出版活動を整理統合し「教団出版局」として発足した時にさかのぼります。戦後「出版事業部」となり、一九六七年総務局(現在の事務局)から切り離して「出版局」として組織され、現在に至っています。出版局の会計は教団本会計とは区分して行われています。

はじめに

出版局は、書籍・定期刊行物・讃美歌等の出版を通じて教団の宣教の働きを担っています。今年で四〇周年を迎えます。

出版局の他の出版社との違いは、出版物の企画を教団内外の多くの教職・信徒によって構成された専門委員会が担っていることです。多くの方々によって支えられる体制が発足以来続けられてきました。売上等の推移と部門別構成比は、別表をご覧ください。

書籍では、一九八七年に刊行された『聖書 新共同訳』『日本聖書協会』を契機として、『新共同訳 旧約・新約聖書注解』(全五巻)、『現代聖書注解』(全四〇巻)などの注解書、『総説 現代神学』などの総説シリーズ、『キリスト教人名辞典』『新共同訳 聖書事典』などの辞典類、そして『朝の祈り 夜の祈り』『教会生活の処方箋』など教職・信徒の学びや信仰生活を支えるもの、キリスト教学校で用いる教科書、絵本など、教団出版局ならではの出版によって、教団の教会だけ

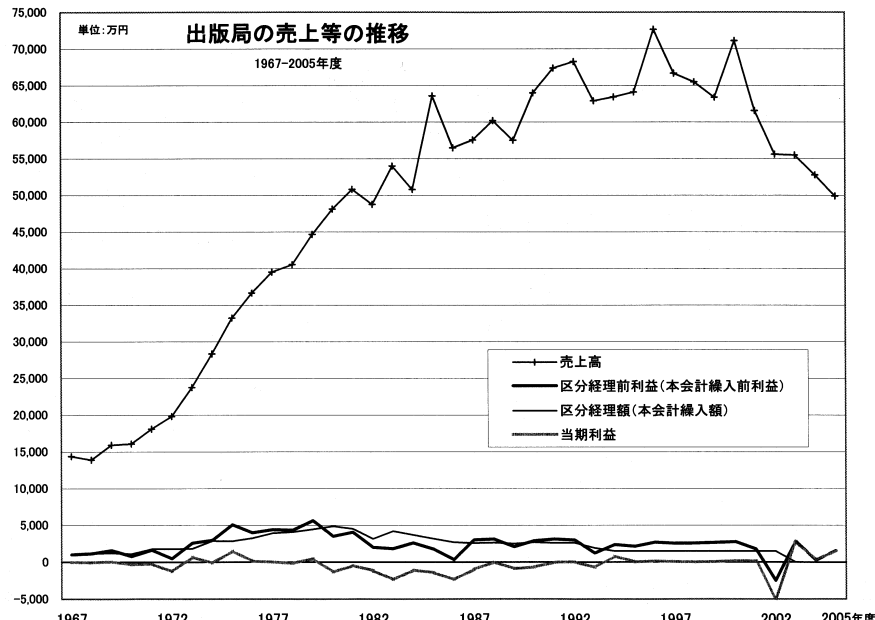
でなく日本のキリスト教の宣教を支えてきました。定期刊行物では、「信徒の友」、「こころの友」、「季刊 教師の友」、「季刊 説教黙想・アレテア」、「季刊 礼拝と音楽」がそれぞれに創刊時の熱い思い、編集のために結集した多くの方々の努力、そして読者の支えによって刊行が続けられています。

現在

出版局の働きは、これまでの歩みを継承しながら続けられています。発足当時一億二千五二八万円であった総売上は、順調に売上を伸ばし七億円に達した年度もありましたが、昨年度は五億円をわずかに下回り、この厳しい状況をどのように乗り越えるかが大きな課題です。

また、「こどもさんびか改訂版」(二〇〇二年)は三六年ぶりの全面改訂です。関連商品として『讃美歌21略解』『讃美歌21CD』(一〇枚)などを出版しています。

二名であった人員体制は現在では二〇名、嘱託二名によって担われています。書籍は専門書、一般書を併せて、毎年三〇〜四〇点の新作を企画出版しています。オンデマンド印刷による少部数重版や、ホームページによるネット受注なども始めています。



第34総会期には教団本会計と出版局会計との関係適正化が進められました。教団紛争によって負担金未納を抱えた教団は、歳入不足を解消するために出版局から本会計への繰り入れ額を出版局の利益をはるかに超えて予算計上した時代がありました。この会計処理による多額の累積が教団では「出版局勘定」として計上されていましたが、公認会計士の指導のもと、出版局で本会計勘定として本会計

に対して負債となっていたものを「元入金」に振り替える処理が行われました。また、定額の繰り入れ金(年一五〇〇万円)を改め、当期利益の二〇パーセントを寄付金とすることとなりました。

出版局の収益事業として、キリスト教団の教勢の伸び悩みのなかで、改めて文書伝道が果たす役割の大きさを思います。これからの出版活動を通して教会に伝え、福音が地の果てまで伝えられていく働きの一環を、担い続けていきたいと考えています。(出版局長)



秋山 徹

出版局の収益事業として、キリスト教団の教勢の伸び悩みのなかで、改めて文書伝道が果たす役割の大きさを思います。これからの出版活動を通して教会に伝え、福音が地の果てまで伝えられていく働きの一環を、担い続けていきたいと考えています。(出版局長)

出版局は、教団のなかの収益事業として、キリスト教団の出版会社なのか、文書伝道を行う機関なのか、あるいは教団の運営費を捻出するための事業なのかと、その性格をめぐって設立当初から議論がありました。出版局四〇年の歩みはまさにその混乱のなかで続けられてきたように思っています。設立の主旨を改めて深く捉えなければなりません。いずれにしても、教団の教勢の伸び悩みのなかで、改めて文書伝道が果たす役割の大きさを思います。これからの出版活動を通して教会に伝え、福音が地の果てまで伝えられていく働きの一環を、担い続けていきたいと考えています。(出版局長)

将来

厳しい経営環境のなかで、出版局が将来どのようにその使命を担っていくことができるか、書籍、定期刊行物、讃美歌それぞれに課題がありますが、いずれにしてもバラ色の将来像を描くことは難しい状況です。これから取り組むべき課題をいくつか挙げてみたいと思います。

- 1 教団内外の読者ニーズに即応する堅実な中・長期の経営計画に立つ企画力の強化。
- 2 教会を越えて社会全体にキリスト教のメッセージを届けてゆく出版形態や情報伝達形態の開発。
- 3 キリスト教出版業界全体の連帯と強化、流通・営業体制の整備。

出版局は、教団のなかの収益事業として、キリスト教団の出版会社なのか、文書伝道を行う機関なのか、あるいは教団の運営費を捻出するための事業なのかと、その性格をめぐって設立当初から議論がありました。出版局四〇年の歩みはまさにその混乱のなかで続けられてきたように思っています。設立の主旨を改めて深く捉えなければなりません。いずれにしても、教団の教勢の伸び悩みのなかで、改めて文書伝道が果たす役割の大きさを思います。これからの出版活動を通して教会に伝え、福音が地の果てまで伝えられていく働きの一環を、担い続けていきたいと考えています。(出版局長)

お知らせ
『教団新報』今号を四六二五・二六合併号とし、四六二七号は五月二六日発行とします。
総幹事職務代行 愛澤豊重

荒野

▼歌が苦手だ。嫌いだ。ないが、上手ではない。歌うことを強いられるような場面になるととても辛い。一番だけでも歌詞を憶えている歌は一曲もない。▼と思ひ込んでいたら、二番三番まで記憶しているものが数曲あることに気付いた。所謂変身ものの主題歌、例えば『宇宙刑事ギャバン』を全部憶えていた。アニメソングもかなりの程度まで。皆、二〇年程前のものだ。残念ながら、私は三〇歳前後の青年牧師ではない。いずれも当時幼稚園生の長男が熱中していたテレビ番組。▼懐かしのポップスなどという類の曲が流されていると、つい、立ち止まって聴いてしまう。グループサウンズにも、演歌にも。当時好んで聞いていたかという、全く逆で、大嫌いだ。にも拘わらず耳に残っているし、今となっては、とても懐かしい。毛嫌いしていた演歌にもホロリとしてしまうのだ。▼若い時から親しんだ讃美歌が無くなってしまったという嘆き、むしろ怨嗟の声を聞く。『懐かしの讃美歌名曲選集』とか、何かしら、工夫しないものだろうか。

JNAC 解散後も宣教協力を継承

鮮明なビジョンと具体的な方法を求めて

二世紀の宣教を、それぞれの地域で共に担う

が二〇〇五年一月に解散総会を開催した際、解散後も引き続き日北米の宣教協力を継承して行く方向付けとして開催が予定されていた。

の導きの声を聞き、パウロによつて開始されたように、今日の日本の社会にもこの導きの声が響いていると示された。

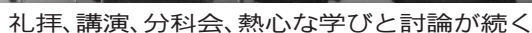
一〇〇年を迎えますが、米教会との生きた関係が築かれ、主の御名が賛美されると思われます。

今回のフォーラムは日



会から、会わせた

(アメリカ長老教会宣教師、東京神学大学教授)、「共に生きる世界をめざしてー二一世紀ディアスポラ教会の宣教の課題」と題して全



の山北宣久議長が挨拶をされた。

「JNACCは、BCC以来六〇年の歴史を閉じ、解散しました。解散にあたり日口本でのフォーラム開催が決議され、そのための予算も承認されました。そして、今回の開催の実現に至りました。

今回のテーマは『日本における宣教』（伝道協力と展望）であります。二〇〇九年にはプロテスタント

の伝道。日本のナショナル・イデオロギ
ズムに焦点が当てられる
とになりました。日本が
の哀れみによって与えら
れた平和憲法、特に九条を
定しようとする動きもあ
ります。東アジアの動静も
張を増してきました。日
の教会が、また属する青
が東アジアに貢献するこ
ができたなら、どんなに素
らしいことかと思えます。

新しい宣教体制が要請
れています。このフォー
ムを通して宣教協力の具

②日本を含めて世界の
きな風向きを読み取る
と。どこからやこへ風が
いているか。なぜ風が吹
ているか。日本におい
はナシヨナリズムへのリ



品(3)北米(6)計8教団

二日目の午後七時からには青年の夕べが開かれた。ＫＣＣＱ青年会、青山学院ＡＣＦ、聖ヶ丘教会青年会が賛美と証を行い、時代を担う皆さんの力を示され、大きな希望が与えられた。

全体会では声明及びアクション・プランについて熱心に協議された。最終的に字句の訂正等については日本側の実務委員会に委ねられている。草案の声明は次の

外形だけ学んで、十字架の愛を学ばねば、コリント的退廃か、ガラテヤ的反動がやってくる。

プロテスタント教会の日本宣教は一四〇年以上

は、受洗後遠のきがちな信徒を、一定年限で整理して行く制度上の問題もあるだろう。

諸教会に対話がなくなれば、福音は独善的にな

態の社会で生きるエート
スも「無い」。ハルコは
くは、二つの「無い」状
態から、ナシヨナリズム
への回帰と経済グローバ
リゼーションの動きが跋

ゼーションの動きがある個人化、自由がガラテヤ会的でなく、マケドニア会的な自由の正しさを教えること。教会は情報媒介を通して世界に発言を発信

「日北米宣教フォーラム」に集められ、平和の主の権を信じる私たちは、今日本で、『憲法改正』特に第九條』の準備が急速に進められていること、大きな不

日本における宣教

―伝道協力とその展望―

講演要旨

聖学院大学学長 阿久戸光晴

が必要で、北

は、ヒューリタンの信教の自由、人権理念とその保障制度となつて広く歡迎されているが、パウロの伝えた自由は、他者に仕えるという愛の責任と結び付いている。自由の

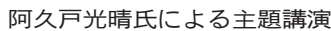
質〇・四%以下といわれる。なぜ日本伝道は戦後も困難を極めているのか。家族主義の壁、墓を同じくしたいという思いが大きな阻害要因になっている。だが、天皇制や

教育に対する類い稀な尊敬と熱意は、福音受容という花を開かせる可能性を持ち、キリスト教主義学校の存在意義もそこにある。日本のキリスト者数が統計上増えない理由

米や東アジアの宣教師の眞の証しと同時に、日本人伝道者も海外に出て行くことが望まれる。今日の伝道の使命は、何を何のために伝えるのかという宣教の質的側面と宣教における海図



阿久戸光晴氏による主題



とは、信仰を共有する者の国籍を超えた連帯といえよう。

（永井清陽報）

「まず
開会礼拝と挨拶に続
て、『日本における宣教』
道協力とその展望」と題し

③日本は世界の人々と帯を深め、痛みを分かち、助け合うことであると示している。

(中略)もし憲法九条が改定され、集団的自衛権が行使できるようにになると、日本は、米国と共に、戦争が

演の趣旨は別掲参照
その後、質疑応答があり、特に「日本の教会」としてはなければならないこと三つあげて欲しい」との問いに、
「①福音に即し、聖書をみ、祈り伝道する事だ」と。

た。日本のナショナルリズムとキリスト教「日本における学校の役割と使命」「日におけるキリスト教の指導者養成」「伝道を担う青年育成」のテーマのもとにアクション・プランへ向けての話し合いをした。

し、主の支配のもとにある
眞の平和を心から願うもの
です」

三日間の宣教フォーラム
は次回の開催を願いながら
閉会した。

（鈴木伸治報）



二日目の午前、二人から
 発題がおこなわれた。十字
 架と空の墓の地平に立つ
 て」と題してトーマス・シ
 ヨン・ヘイスティングス氏
 (アメリカ長老教会宣教
 師、東京神学大学教授、井
 に生きる世界をめざしてし
 二二世紀ディアスポラ教会
 の宣教の課題」と題して金
 性済氏(在日大韓基督教會
 名古屋教会)である。

二日目の午後七時からけ
 青年の夕べが開かれた。K
 C C J 青年会、青山学院A
 C C F、聖ヶ丘教会青年会が
 賛美と証を行い、時代を担
 う皆さんの力を示され、大
 きな希望が与えられた。

過疎化進む能登に震度6強の地震

輪島教会周辺では大きな被害

三月二十五日、〇六年度最後の日曜日、能登半島の北端にある輪島教会では、八年という時を一緒に過ごした勇文人牧師一家の送別会が、礼拝後に予定されていた。



輪島教会近隣、奥の家は半壊、手前は全壊し既に撤去

三月二十五日、〇六年度最後の日曜日、能登半島の北端にある輪島教会では、八年という時を一緒に過ごした勇文人牧師一家の送別会が、礼拝後に予定されていた。

教師検定委員会新組織発足

小堀康彦委員長、倉橋康夫書記選出

輪島市門前地区の被害の甚大さは、一言で壊滅状態。戦場を連想させられた。外形が一応そのまに残っているコンクリートの建物も内部はどうなのか。

静かに、しかし覚悟を定められた。後任の五十嵐成見氏は、東京神学大学の卒業、彼も被災した輪島教会に、予定通り赴任した。他教派から転入した関係で、信徒伝道者としてスタートする。

東 喜び、祈り、感謝

三浦 修

二〇〇四年十月三日夜刻に発生した「新潟県中越地震」からはや二年半が過ぎようとしている。今年一月二十九日・三〇日に開催された常議員会で新しく選任された教団の「新潟県中越地震」被災教会会堂等再建支援委員会の方々と関東教区の支援委員会のメンバーとの合同会議が開催された。席上、見附教会と小出教会の諸般の事情による土地購入の一部代金（二千万円）を加え全国募

教区 コラム

金目標額一億五千万円を一億八千万円に増額して欲しい旨を、関東教区よりお願いしました。



一番奥の席が小堀委員長、右が倉橋書記



菊地一男牧師、服部真奈宣教師、上田博子幹事

トランク一杯に「神の愛」を詰めて

服部真奈宣教師、高雄日本語教会付属幼稚園へ

三月二五日服部真奈宣教師派遣式が菊地一男牧師の説教、上田博子世界宣教師担当幹事の司式により、横浜本牧教会の聖日礼拝の中で執り行なわれた。

高雄日本語教会の付属幼稚園に、高久華子宣教師の後任の信徒宣教師として派遣される。

台湾では三〇数名の日本からの駐在員の子どもや日本の幼児教育に関心のある台湾の方の子どもたちが待っている。

宣教師からの声

神様のネットワークの中で

浅田 容子

(ユニオン日本語教会宣教師)

本日無事に月報発送作業終了。毎月第三水曜日の家庭集会(今月は二名の送別会)の後に、参加者たちの奉仕で発送作業を行う。作業中は幼児たちの遊び廻る声と主婦達のおしゃべりとでさまざま騒ぎ。主婦のパワーはものすごくあつという間に作業完成。楽しいわ。単純作業も大好きー!などと言つ元気な声を聞くと、感謝せずには居られない。

我々の教会は駐在員達の多い地域にあり、主に短期滞在の方々への伝道・牧会が使命である。現在の正会員は十一名。準会員(日本

への転居が決定している。いつまで経っても自立出来ない「ミッシヨン・ベース」の教会である。一方、駐在・国際結婚・学生などN.Y.やコネチカット州郊外に來られる方々は、一時期激減したが最近また増えている。各地家庭集会や、親子の絵本の会、英会話クラスなど、登録メンバーは増加の一途をたどり、参加者総数は毎月六〇名〜八〇名と思われる。若い子供連れ参加者が最近増え集会に毎回十名程度の幼児(二歳以下)が集まる。遠隔地の方々が多く我々の教会の礼拝に來られないため、彼らの地域のアメリカの教会と協同のプログラム(日本語礼拝やクリスマス礼拝など)を開いている。

私自身が独身女性のため、一人で出来る働きには限界があり多くの方々に助けて頂いている。それぞれの活動に教会員たちは総動員。アメリカの教派の大きな支援のもとアメリカ人の協力者がとても多い。毎月の月報など英語文書には私のつたない英語を加筆校正して下さるのは神学校時代の恩師たち。日本語の校正は月報も週報も教会員たち。八五歳の医師の会員も丁寧な校正担当者。コンピューターの不得意な私を助けてくださるのも、教会員たちと彼女達のご主人やアメリカ人の青年など。この一月には、私自身がN.Y.に居りながら「ハワイ研修旅行」を計画し、ハワイで四年間働いた時の同僚牧師たちや教会員達の絶大なる協力のお蔭で、何ら苦勞なく大きな



トランブル家庭集会 (イースター)

成果と祝福を与えられたのには私自身が驚いてしまった。共に用いられた喜びは大きい。参加・協力者一同とても謙虚で「神様の御用をさせていただいて感謝です」何でも出来る事はさせていただきます」と言われる。皆様の謙虚さに頭が下がり、私自身もっとも主のために喜んで働きたいと思わせられる。

アメリカの神学校卒業後、宣教師として二〇年もアメリカで働くとは、私を初め誰も想像していなかった。ただ神様のご計画としか言いようがない。永住権を取る気はなかったため、任期終了後「ザ」が切れると帰国、また赴任、ついに在米宣教活動二〇年目。N.Y.三度(計十三年目)、シカゴ(三年)、ハワイ(四年)である。おかげで宣教協力者たちが全米と日本の到る所に居られ「緊急願い! SOS」を出せば直ちに応答して助けて下さっている。折りのメールや励ましの電話が常に掛かる。「神の家族」の支援の輪は広がるばかり! この驚くべき「神様のネットワーク」に守られている幸せを感謝しつつ、元気に御用に邁進させて頂いている。来年四月末にはまた「ザ」が切れるので帰国。その後? おまね!

教団事務局職員のみり言

教団事務局の仕事をしていると、様々な電話がかかってくる。いわゆる悩み相談の一つである。わたしはこういう組織なのだから、これらの電話を受け、話を聞くことも仕事の「環」だと考えている。ときには一時間にわたる話に、急ぎの仕事を抱えて困ったなと思うこともあるけれど、今、誰かに話したいという電話をむけに切るわけにはゆかない。

先日、ある老人からの電話を受けた。四〇数年の教会生活を送られ、もうすぐ八〇才をお迎えになると。現在は老人ホームに入居されているとのことだが、訳あって長く独居をしておられた。歳を重ねることに体も弱り、足を悪くしてから教会に通うことが出来なくなつて久しいという。けれども、主イエスを信じて、教会を思い、月定献金も納め、教会からも月報は届く。教会が教会に通い始めてから、現在の牧師は四代目だが、教会に行かれないため疎遠になり、親しかった教会員も亡くなった今、教会との接点は郵便で送られてくる月報だけ。しかし、風の便りで牧師は教会員を訪問しているの聞くときに、言いしれない寂しさが去来するとう。「せめてイースターやクリスマスには行きたいと思うけれど、敷居が高くなってしまいました」と。

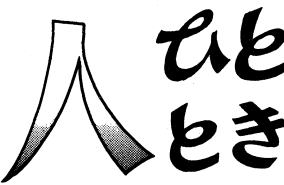
病気がちで困っていた時に、彼女を助けてくれたのは教会の人々ではなく、ご近所のノンクリスチャンであった。教会とは何だろう? という思いがよぎる。彼女は決して教会のことを悪くは言わない。ただ、自分のような寂しい思いをしている老人が多くいるだろうから、どうか教会はそのことを忘れないで欲しいと消え入るような声での訴えだった。事務局に電話するのは勇気がいったことだろうと思う。

可能なら、自分の思いを広報などで伝えて欲しいという希望を最後に語って電話は終わった。さまざまな思いが事務局に伝えられてくる。その一つとして紹介したい。

能登半島地震 緊急救援募金のお願い

◎目標額 1,000 万円
◎募金期間 2008 年 3 月末
◎送金先 加入者名 日本基督教団社会委員会
◎郵便振替 00150 - 2 - 593699
*社会委員会独自の口座です。お間違えのないようにお願いします (通信欄に「能登半島地震緊急募金」とお書き下さい)。

日本基督教団社会委員会委員長 張田 眞



李 秀 雲さん

癌宣告をも乗り越え



台湾生まれ、埼玉中国語礼拝伝道所牧師、久美愛教会代務者。

李さんは台湾のミッシヨン大学で、初めてキリスト教に触れた。ただ、アメリカ人宣教師であった学長夫人によるキリスト教の授業を真剣に学ぼうとはしなかった。けれども卒業直前、学長夫人の死を通して、彼女の祈りと信仰を受け継いでいこうと決意し、洗礼へと導かれた。その後日本へ留学し、不思議な導きで、第一志望でなかった東京神学大学へ入学した。入学当初は、将来牧師になるというより、ただ聖書の研究がしたいという気持ちが強かったが、やがて伝道者としての志へと導かれた。卒業後、中渋谷教会で信徒伝道者として奉仕、更に准允按手礼を受けるに至った。けれどもその後一度は帰国したが、台湾の神学校で授業を担当していた。そのような生活の中で、医者から末期癌の宣告を受ける事態に直面し、李さんは神の前にひざまずき「病気が治つたら、一生涯を献げます」と祈った。そして不思議なことに回復へ導かれた。この出来事は李さんにとって、悔い改め、再献身の機会となり、日本へ戻ることにした。しばらく緑聖教会に遣わされた後、開拓伝道の道が拓かれた。

ところが再び癌が進行し、今度はそれは治癒は困難と死を覚悟した。遺言書を作成し、葬儀の手順まで考えた。しかし難易度と危険性の高い手術が成功し、

現在、埼玉中国語礼拝伝道所、久美愛教会に仕えている。また語学の才能が用いられて、留学生の相談を多く受け、その中から留学生やその家族が洗礼へと導かれてもいる。李さんは主を讃美し、「神は生きておられる。主はどんな時にも希望を、どんな時にも祝福を与えてくださる。残る生涯も伝道者として証ししてゆきたい」と嬉しそうに語った。

プロテスタント伝道開始以後ほぼ一五〇年。日本で何人の宣教師が活動されたことが。戦後の一番多い時は、全国で六百名の宣教師が活動されていたと聞くが、現在は約九〇名。

三月二七〜二九日、青山学院で旧・日北米宣教協力会(通称JNAC)から、各々の代表約六〇名が集まり、フォーラムを開催。これは二年前に、JNACが解散したが、これまでの関係で与えられた賜物などを双方が継承しつつ、今後、何を共有できるかを探る第一回目のもの。

日北米宣教フォーラムに

日本伝道の多くの部分は、宣教師の働きによることは周知のことであるが、このフォーラムで、個人的に次のことを知らされた。それはJNAC解散の前年、三月二七〜二九日、青山学院で旧・日北米宣教協力会(通称JNAC)から、各々の代表約六〇名が集まり、フォーラムを開催。これは二年前に、JNACが解散したが、これまでの関係で与えられた賜物などを双方が継承しつつ、今後、何を共有できるかを探る第一回目のもの。

かつての感謝とお礼を兼ねて、山北宣久議長と、当時の世界宣教委員会・大宮博委員長が北米各教団を訪問された時、「教団の代表が、直接来てくださったのは初めてです」と二教団から言われたよう

「瞬間「エッ」と思ったが事実らしい。確かに、お礼に行く余裕もなかったかもしれないが、やはりどう考えても礼を失したとしか言いようがないように思われる。と同時に、これは、かつての教団代表のごとでなく、今の私たちが、様々な犠牲を払って宣教師を派遣して下さった北米教会に、これまで感謝しているか、と問われたことでもある。

過去への感謝があつてこそ、確かな未来が作られる…。(教団副議長 小林 眞)